

from the world  
世界の国  
から

# 日本と途上国の間で CDMプロジェクトを促進する

UNIDO東京事務所は、国連機関共同プロジェクトの一環として、CDM(クリーン開発メカニズム)投資促進専門官(デレゲート)プログラムを5月12日~21日(ブラジル連邦共和国)、21日~30日(南アフリカ共和国)の日程で実施しました。

これは、途上国のCDMプロセスへの理解を深めると同時に、京都議定書やCDMに関する日本の政策および民間セクターの関心、要望を把握して、日本と途上国間のCDMプロジェクトを推進するためのもので、国レベルのCDMプロジェクトの紹介としては日本で初めてのプログラムです。

## ブラジル連邦共和国 Federative Republic of Brazil



### 能力開発と しての重要 性を認識

日本での滞在は、1週間余りと短いものでしたが、その分集中して活動することができたと思います。主に東京を拠点に、公的機関や企業の方々との面談やワークショップを行い、東京以外では名古屋に出張して、CDMに非常に強い関心をもつ企業と面談を行いました。

面談などを通じて、日本のCDMに対する関心の高さを感じましたが、公的機関の関心がどちらかというとアジアに向いているのに対し、民間企業の関心はラテンアメリカにも向けられているようでした。

今回紹介した案件の中でも特に重要と考えているのが、燃料代替に関するプロジェクトです。ガソリンの代わりにエタノールを導入するというもので、CO<sub>2</sub>を700万トン削減できると予想しています。これはブラジルとドイツとの共同プロジェクトですが、ブラジルと日本、あるいは日本と別の国と

の間でも適用できると考えており、非常に高い関心を示した企業もありました。

今回、日本でCDMの投資促進プログラムが実施されたことは、日本とブラジル両国にとって非常に有益であったと思います。ブラジルでのプロジェクトの認証は6件とまだ少ないですが、政府はCDMを能力開発の一環と捉えており、その重要性を強く認識しています。帰国後は、滞在中の経験をブラジルのプロジェクト開発に役立てていくつもりです。

ホセ・ロベルト・モレイラ  
UNIDOナショナル・エキスパート  
CDM投資促進専門官

Prof. José Roberto Moreira  
UNIDO National Expert/CDM Investment  
Promotion

## 南アフリカ共和国 Republic of South Africa



### プロジェクト 実現への期 待高まる

南アフリカにおけるCDMプロジェクトの開発は、他の途上国に比べれば多少進んでいます。それでもまだ初期の段階といえます。そのため、今回プロモーションのために用意した23の案件もいわゆるパイロットプロジェクトでしたが、技術的には埋め立てや、太陽光発電のように住居に関するものな

自然保護区になっている南アフリカの喜望峰(提供:南アフリカ観光局)



ど、多岐にわたっています。ただ、初期段階ということは逆にマーケットがオープンであると捉えることができるため、日本の企業に投資の機会を提供する良いチャンスだと考えています。

プロジェクト開発の一例として、私が主催するNGO(South South North)では、南アフリカのほか3カ国で、CDMプロジェクト実施能力の育成プロジェクトを進めています。オランダ外務省から予算を得て、1999年より各国政府と緊密な関係を築きながら活動を続けた結果、来年度中には計14のCDMプロジェクトが各国で立ち上がる予定です。

今回、南アフリカとビジネスのある企業からまだそれほど経験のない企業まで、様々な企業との面談を行った結果、多くの企業から非常に高い関心が得られ、プロジェクト実現の可能性もかなり高まったと思います。今後、この成果をどのように南アフリカのプロジェクト開発に生かしていくかが重要であり、引き続きUNIDOのサポートを期待しています。

ステファン・ラウベンハイマー  
UNIDOナショナル・エキスパート  
CDM投資促進専門官

Mr. Stefan Raubenheimer  
UNIDO National Expert/CDM Investment  
Promotion

多くの人でにぎわう  
イパネマ海岸(ブラジル)

